

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
専門学校 岡山自動車大学校	昭和61年11月4日	原田 公德	〒719-0252 岡山県浅口市鴨方町六条院中2045 (電話) 0865-44-7700				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 第一原田学園	昭和49年4月1日	原田 一成	〒719-0252 岡山県浅口市鴨方町六条院中2069 (電話) 0865-44-3100				
目的	一級自動車整備士に必要な高度な電子制御知識・技術を教育し、リーダーシップ及び実践的な能力を備えた有能な一級自動車整備士を養成することを目的とする。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
#REF!	工業専門課程	一級自動車整備科		—	平成21年2月27日 文部科学省告示		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4	昼間	3,889	1,408	0	3,608	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数	
80	55		10	3		13	
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験と平素の授業履修状況によって行う			
長期休み	■学年始: 4月 1日～ 4月 3日 ■夏季: 8月 1日～ 8月31日 ■冬季: 12月25日～ 1月 7日 ■学年末: 3月27日～ 3月31日		卒業・進級 条件	各学年において所定の科目を履修した者は次の学年へ進級を認める。所定の科目をすべて修了したときは卒業とする。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 保護者・学生・担任による三者懇談		課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 有			
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 自動車販売会社 ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100 % ■その他 (平成 #REF! 年度卒業者に関する 平成28年3月31日 時点の情報)		主な資格・ 検定等	1級小型自動車整備士 2級ガソリン自動車整備士 2級ジーゼル自動車整備士			
中途退学 の現状	■中途退学者 2名 平成27年4月1日時点において 在学者 61名 平成28年3月31日時点において 在学者 59名 ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止のための取組 遅刻・欠席の管理指導。学生、保護者との懇談。カウンセリング。		■中退率 3.3 % (平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者を含む)				
ホームページ	http://www.okajidai.com						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会を年間2回開催する。教育課程編成委員会の企業等委員と連携して、専門分野における人材の専門性に関する動向、国又は地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能などの情報を十分に把握分析して、企業等の要請を反映した教育課程の編成を行う。授業科目の開設や内容・方法・工夫等についても企業等委員と連携して検討し、改善する。一級自動車整備士は国家試験が実施されてまだ日が浅く整備現場における有資格者もまだ少ない。高度な整備知識・技術を取得することが条件であることから整備業界では幹部候補などリーダー的役割を期待されている。修業年限も4年あるのでより現場を想定しての実践的な実習を行うことも可能である。高度な整備技術を習得するのは勿論重要であるが業界が期待するリーダーシップを備えるために必要な教育は具体的に何を取り入れれば良いかを企業等委員からの意見を参考に授業の中に取り入れていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は教育課程の編成における意志決定の過程に位置づけられる。岡山自動車大学校組織図のとおり、教育課程編成委員会において、各課・委員会・主任会などの本校委員と企業等委員が教育課程について検討、提案を行う。教育課程編成委員会からの提案を参考にして、校務部により教育課程の検討・改善を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年7月1日現

名前	所属	任期	種別
原田 公徳	岡山自動車大学校 校長	H27. 7. 1～H29. 6.30	
森山 典章	岡山自動車大学校 校務部長	H27. 7. 1～H29. 6.30	
山田 忠志	岡山自動車大学校 進路部長	H27. 7. 1～H29. 6.30	
青木 浩志	岡山自動車大学校 主幹	H27. 7. 1～H29. 6.30	
佐々本和知	岡山自動車大学校 教務課長	H27. 7. 1～H29. 6.30	
川上 薫	一般社団法人 岡山県自動車整備振興会 事業部課長	H28. 7. 1～H30. 6.30	①
山本 茂	おかやま山陽高等学校 自動車科 部長	H27. 7. 1～H29. 6.30	②
松岡 正志	岡山ダイハツ販売株式会社 総務部採用グループ 課長	H27. 7. 1～H29. 6.30	③
小椋 竜太	岡山ダイハツ販売株式会社 吉備路店 主任	H27. 7. 1～H29. 6.30	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回開催

(開催日時)

第1回 平成27年 9月25日 13:30～14:30

第2回 平成27年10月 2日 10:30～11:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

サービスマネジメント(板金塗装)の中で、現場のディーラーで行われている板金見積りの作業をロールプレイング形式で取り入れてはどうかという意見を受けて、4年生後期の授業の中で行うこととした。また、接客対応・マナーの重要性に関する提案を受けて、評価実習の総合診断の授業の中で以前から行っていた学校解放デーを利用し保護者の車を点検する作業について、より実践的な接客対応の取り組みを行い、現場を想定したマニュアル通りではない自然な対応が出来る力を身につけることの出来る授業を実施することとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

体験実習(インターンシップ)

- ①自動車整備士の実際を知ること
 - ②自動車整備の専門技術職として、自覚と責任を持つこと
 - ③学校内で習得した知識や技術を実際の整備現場において実践できる能力を養うこと
- を目的として学生の就職内定先の企業と連携して体験実習を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

担当教員が受入先企業を訪問し、実習内容の詳細を決定する。企業との間に「体験実習依頼書・承諾書」を交わす。体験実習として、224時間の実習を行う。「体験実習報告書」により日報の作成と欠席・遅刻・早退の管理を行う。実習の評価については「体験実習報告書」および「体験実習評価表」により受入先企業において体験実習担当指導責任者が行う。また、体験実習終了時には受入先企業による学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
体験実習	1 自動車の点検整備 96時間	(株)岡山マツダ/東中国スズキ自動車(株)/山陽村上モーター(株)/(株)広島マツダ/岡山ダイハツ販売(株) 他(合計10社)
	2 故障原因探求 96時間	
	3 総合診断 32時間	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

岡山自動車大学校教職員研修規程により、教職員の実務に関する知識並びに指導力の修得・向上等に組織的に取り組むことが定められている。研修計画は校務部により主管し、計画を策定し校長へ答申する。教職員は各種研修に対して参加する義務を負う。また、職業教育を実践するため、企業等と連携し教育能力を高める取り組みを組織的に行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・**マツダセミナー** マツダ自動車株式会社主催/マツダ自動車株式会社より6名来校 H27.7.23 参加者/山田・青木・小林・池上
内容/実車を使用した点検デモ実演。12ヶ月点検。サービスエンジニアQ&A
企業等との連携/「自動車検査作業」の授業で12ヶ月点検を取り入れる。
- ・**整備主任者技術研修会** 一般社団法人岡山県自動車整備振興会主催 H27.8.4 参加者/佐々本
内容/自動車の新機構(学科)。点検・整備(実習)。故障診断(実習)。
企業等との連携/「自動車整備に関する法規」の授業のなかで自動車の新機構についての説明を行う。

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・**一級対策意見交換会** 全国自動車大学校・整備専門学校協会主催 H27.7.28 参加者/天野
内容/整備士国家試験の合格率向上のため、指導における問題点の提起と改善のための意見交換。
企業等との連携/研修内容を教職員全体で共有し、各授業内で行う国家試験対策をより充実させる。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・**整備主任者技術研修会** 一般社団法人岡山県自動車整備振興会主催 H28.7.19 参加者/天野
内容/自動車の新機構(学科)。点検・整備(実習)。故障診断(実習)。
企業等との連携/「自動車整備に関する法規」の授業のなかで自動車の新機構についての説明を行う。
- ・**マツダセミナー** マツダ自動車株式会社主催/マツダ自動車株式会社より6名来校 H27.7.28 参加者/森山・山田・天野・合田
内容/実車を使用した点検デモ実演。12ヶ月点検。サービスエンジニアQ&A
企業等との連携/「自動車検査作業」の授業で12ヶ月点検を取り入れる。

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・**自動車整備技術講習** 一般社団法人岡山県自動車整備振興会主催 H28.7.3 H28.7.10 参加者/山田
内容/二種養成施設自動車整備技術講習の講師
企業等との連携/二種養成施設での受講者への教授法を実践的に体験し、本校学生への指導法に取り入れる。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会を年1回開催する。実践的かつ専門的な職業教育を実践するにあたり、学校関係者による評価を実施し、自己評価結果の客観性・透明性を高める。学校関係者との理解促進や連携協力を図るとともに、助言・意見などの評価結果を教育活動および学校運営の改善に活用する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・人材育成像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会の主な意見として、①学生の成績評価について全教職員での情報の共有化が重要である②保護者との連携の重要性③防災安全への取り組みの重要性などについて指摘があった。①については職員会議等を通して常に情報を共有できるようにし、評価基準のずれが最小限によるよう、改善していく。②保護者との連携の重要性については、参観日、学校解放デー、懇談などの参加を促し、保護者と担任の連携を密にするよう改善していく。③防災安全への取り組みについては、毎年防災訓練の時に見直し改善していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
川上 薫	一般社団法人 岡山県自動車整備振興会 事業部課長	H28. 7. 1～H30. 6. 30	職能団体
山本 茂	おかやま山陽高等学校 自動車科 部長	H27. 7. 1～H29. 6. 30	有識者
松岡 正志	岡山ダイハツ販売株式会社 総務部採用グループ 課長	H27. 7. 1～H29. 6. 30	関連企業
小椋 竜太	岡山ダイハツ販売株式会社 吉備路店 主任	H27. 7. 1～H29. 6. 30	関連企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL: <http://www.okajidai.com>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動の状況等について企業関係者に情報提供することにより、相互の対話を促進し、学校内外の実習、就職指導など企業等との連携による活動の充実や、自動車業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげる。毎年10月から11月にかけて進路部長および1年生担当教員が企業を訪問し、懇談する。また、国土交通省へは、毎年、養成施設報告書を提出している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育・人材養成の目標/校長名/特色/所在地/連絡先/沿革
(2) 各学科等の教育	定員/取得を目指す資格/カリキュラム/合格実績/卒業生数・進路
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	体験実習/就職支援/関連団体との連携(JAMCA)
(5) 様々な教育活動・教育環境	課外活動/部活動
(6) 学生の生活支援	学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学納金/奨学金
(8) 学校の財務	監査報告書
(9) 学校評価	自己評価/学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.okajidai.com>

授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車整備科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			英語	英会話を学習する	1通	34		○			○			○	
○			社会学	社会学入門として、集団生活の基本を学習する	1通	34		○			○			○	
○			販売理論	自動車販売の理論と実際について学習する	1通	34		○			○			○	
○			進路指導	就職活動指導・ビジネスマナーを習得する	1後	15		○			○			○	
○			体育	ゴルフ	1前	15		○			○			○	
○			自動車工学 二輪自動車	二輪自動車の構造、機能、四輪との相違などについて学習する	2後	32		○			○			○	
○			自動車工学 ガソリン・エンジン	ガソリンエンジンの構造と作動、燃焼の仕組みについて学習する	1前	32		○			○			○	
○			自動車工学 ディーゼル・エンジン	ディーゼルエンジンの成り立ち、構造・機能・作動を学習する	1後 2前	64		○			○			○	
○			自動車工学 シャシ	自動車シャシ構成部品の構造、役割を学習する	1通 2通	83		○			○			○	
○			自動車工学 自動車数学	自動車工学に必要な計算力を習得する	1前	32		○			○			○	
○			自動車工学 自動車力学	力・速度・圧力・仕事などの基本学習をする	1通	64		○			○			○	
○			自動車工学 電気理論	電気回路の基礎と計算方法を学習する	1前	32		○			○			○	
○			自動車工学 電子理論	電気回路の計算と半導体に関する内容を学習する	1後	32		○			○			○	
○			自動車工学 材料	自動車に使用されている材料を学習する	2後	17		○			○			○	
○			自動車工学 燃料・潤滑剤	自動車に使用されている燃料と潤滑油について学習する	1後	17		○			○			○	
○			自動車工学 図面	三角法での図面の作り方と三角法から立体図の作り方を学習する	1後	17		○			○			○	

○		自動車整備 エンジン	潤滑・冷却等各装置の働きを学習する	1 後 2 前	64		○			○		○					
○		自動車整備 シャシ	自動車シャシ構成部品の構造と整備方法を学習する	2 通	64		○			○		○					
○		自動車整備 電装	エンジン電装、ボディ電装に分けてその構造作動を学習する	2 通	64		○			○		○					
○		自動車整備 故障原因探 求	故障原因の探求方法について学習する	2 通	34		○			○		○					
○		機器の構造取扱 整備作業機 器	一般整備作業機器の使用法、保守管理を学習する	1 前	9		○			○		○					
○		機器の構造取扱 測定機器	精密測定具の使用法、保守管理を学習する	1 前	8		○			○		○					
○		機器の構造取扱 検査機器	検査に関する機器の取扱を学習する	2 通	23		○			○		○					
○		自動車検査	道路運送車両法について学習する	2 通	26		○			○		○					
○		自動車整備に 関する法規	道路運送車両法・道路運送車両の保安基準について学習する	2 通	34		○			○		○					
○		工作作業 (手仕上機 械)	ドリル、ヤスリ等を使用、加工技術を学習する ガス、アーク溶接技術を習得する	1 前	30					○	○	○					
○		測定作業 (基本計測)	基本的な測定器具を用いた作業方法を習得する	1 前	60					○	○						○
○		自動車整備作業 二輪自動車	二輪自動車の分解・測定・組付、電装・駆動、ブレーキ系の点検調整を学習する	1 通 2 通	186					○	○	○					
○		自動車整備作業 エンジン (ガソリン)	脱着・分解・組付による構造作動、実車による故障探求を学習する	1 通 2 通	308					○	○	○					
○		自動車整備作業 エンジン (ジーゼル)	ジーゼルエンジンについて本体の分解組立方法および内部構造の把握と燃料噴射装置の内部構造作動を学習する	1 後 2 通	238					○	○	○					
○		自動車整備作業 シャシ	自動車シャシ構成部品の脱着や分解・点検・整備方法を学習する	1 通 2 通	318					○	○	○					
○		自動車整備作業 電装	電源、始動装置、充電装置、点火装置、灯火装置に関する内容を学習する	1 通 2 通	254					○	○	○					
○		自動車整備作業 故障原因探求	機械的故障、電氣的故障を探求するための点検方法等を学習する	2 後	34					○	○	○					
○		自動車検査作 業	自動車検査機器等を使用し、検査の方法を学習する	2 後	68					○	○	○					

○		情報処理技術	ワープロ・表計算・プレゼンテーションについて学習する	3前	32		○		○	○								
○		経営概論	自動車ディーラー・専門者の経営について学習する	3後	34		○		○	○								
○		販売実務	自動車販売の実践マニュアルを学習する	3後	34		○		○	○								
○		ビジネス検定	ビジネスマナー・一般教養を身につける	3前	16		○		○	○								
○		自動車産業概論	自動車産業製造から販売までを学習する	3前	16		○		○	○								
○		自動車工学 自動車の構造・性能	自動車の性能について学習する	3前	16		○		○	○								
○		自動車工学 自動車の力学・数学	力学、数学の計算を学習する	3前	16		○		○	○								
○		自動車工学 電気・電子理論	サーキットテスター、外部診断器、オシロスコプの取扱を学習する	3前	16		○		○	○								
○		自動車工学 材料	自動車に使用されている材料について特徴と用途を学習する	3前	16		○		○	○								
○		自動車工学 燃料・潤滑剤	コモンレール式高圧燃料噴射システムについて学習する	3前	16		○		○	○								
○		自動車工学 図面	電気回路の図面について学習する	3前	16		○		○	○								
○		自動車整備 エンジン	エンジン電子制御装置の電源回路、センサー、アクチュエーターの構造・機能・点検を学習する	3通	66		○		○	○								
○		自動車整備 シャシ	電子制御装置オートマチックトランスミッションの高度整備技術を学習する	3通	66		○		○	○								
○		自動車整備 電装	ハイブリッド、EV、FCの構造、機能、整備を学習する	3前	16		○		○	○								
○		自動車整備 故障原因探求	エンジンおよびシャシの電子制御装置の高度故障診断を学習する	3後	34		○		○	○								
○		自動車整備 総合診断	受付、問診、整備内容説明などをロールプレイを取り入れて学習する	3後	34		○		○	○								
○		自動車整備 環境保全	自動車から排出される廃棄物、地球環境の保全について学習する	3後	17		○		○	○								
○		自動車整備 安全管理	作業環境の安全への取り組みについて学習する	3前	16		○		○	○								
○		機器の構造取扱 整備作業機器	外部診断機、オシロスコプについて取扱を学習する	3後	7		○		○	○								
○		機器の構造取扱 測定機器	検査ラインを使用して測定機器の取扱方法を学習する	3後	7		○		○	○								
○		機器の構造取扱 検査機器	検査ラインを使用して検査機器の取扱方法を学習する	3後	8		○		○	○								

○		自動車検査	主に指定整備業務に関する知識を学習する	3 後	12		○		○	○				
○		自動車整備に関する法規	道路運送車両法・道路運送車両の保安基準について学習する	3 後	17		○		○	○				
○		工作作業 手仕上げ工作	手仕上げによる金属の加工を学習する	3 前	7				○	○	○			
○		工作作業 機械工作	機械仕上げによる金属の加工を学習する	3 前	7				○	○	○			
○		測定作業 応用計測	テスター、外部診断機、マイクロプロを使用した計測作業を学習する	3 前	18				○	○	○			
○		自動車整備作業 エンジンの点検、分解、組立、調整、検査	エンジンの点検、分解、組立、調整、検査について学習する	3 通	218				○	○	○			
○		自動車整備作業 シャシの点検、分解、組立、調整、検査	シャシの点検、分解、組立、調整、検査について学習する	3 通	218				○	○	○			
○		自動車整備作業 電装の点検、分解、組立、調整、検査	エンジン電装、シャシ電装の点検、分解、組立、調整、検査について学習する	3 通	186				○	○	○			
○		自動車整備作業 故障原因探求	エンジン、シャシ、電装の故障診断について学習する	3 後	70				○	○	○			
○		自動車検査作業	検査ラインを使用して測定と判定を学習する	3 後	20				○	○	○			
○		サービスマネジメント(板金・塗装)	実車を使用して板金および塗装の方法を学習する	3 後 4 後	128				○	○	○			
○		体験実習 自動車の点検整備	点検整備の実践的作業、分解整備の実践的作業、車検整備の実践的作業を体験実習先企業にて学習する	4 前	96				○	○	○	○		
○		体験実習 故障原因探求	高度故障探求技術の習得を体験実習先企業にて学習する	4 前	96				○	○	○	○		
○		体験実習 総合診断	お客様対応実務、高効率整備作業を体験実習先企業にて学習する	4 前	32				○	○	○	○		
○		評価実習 自動車の点検整備	総合的な点検整備、分解整備、車検整備を学習する	4 前	220				○	○	○			
○		評価実習 故障原因探求	総合的な高度故障探求技術を学習する	4 通	260				○	○	○			
○		評価実習 総合診断	総合的なお客様対応実務、高効率整備作業を学習する	4 通	296				○	○	○			
○		卒業研究	個人別研究・発表	4 後	240				○	○	○			
合計			73 科目	5,016時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件は所定の科目をすべて修了したときとする		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。